

琵琶湖・淀川水系、環境保全「川の清掃・流域一覧地図」の制作

琵琶湖・淀川流域圏連携交流会

代表幹事 鈴木康久

大阪府

1 はじめに

淀川水系は、三重・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良の 2 府 4 県にまたがり、その流域面積は 8,240km²、基幹流路延長距離が 75.1km。その流域は淀川本流の琵琶湖・宇治川、西からの桂川、東からの木津川、そして猪名川の 5 つの流域から構成されている。流域人口は約 1,200 万人と多く、日本を代表する水系のひとつである。

この淀川水系において、住居周辺の河川の清掃を行っている市民活動団体は多いが、その実態は行政においても把握されていないのが現状である。そこで、大阪、滋賀、京都を中心にして多様な市民活動団体（NPO 法人）等で構成している当交流会が、河川の清掃活動を行っている団体等に対してアンケート手法を用いて、河川の清掃活動の実態について調査を行った。調査結果については、清掃活動を行っている 162 団体（214 ヶ所）のリストと「川の清掃・流域一覧地図」を作成し、当交流会のホームページに掲載することで、日頃から美しい川づくりに頑張っている方々の「見える化」を行った。

併せて、各団体の連携を図る目的でフォーラム「誰のために河川を美しくするのか」を開催すると共に、各団体が連携し清掃できる情報環境として当交流会のメーリングリストの充実を図った。

2 川を美しくする活動 アンケート調査

(1) 目的

琵琶湖・淀川流域で「川の清掃、流域一覧地図」を作成し、美しい川づくりに頑張っている方々の「見える化」を行い、川を美しくすることの大切さを伝える。

(2) 調査主体

琵琶湖・淀川流域圏連携交流会

※調査協力団体：滋賀県、大津市、京都府、大阪府

(3) 調査期間（募集期間）

2011 年 10 月 15～2012 年 2 月 29 日

(4) 調査対象

琵琶湖・淀川水系（※ 他水系から回答、4団体有り）

(5) 調査方法

アンケート記入方式（アンケート様式参照：次ページ）

①琵琶湖・淀川流域圏連携交流会

会員団体、会員へのアンケート配布（メール、DM）

当交流会幹事から関係者への直接配布

水関係のMLでのアンケート配布

京都新聞で情報募集記事を掲載

②行政機関

関係行政機関の協力を得て、行政機関から関係団体へDMでの配布

- ・滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
滋賀県各地方事務所環境課：平成23年11月配布
- ・大津市環境部環境政策課：平成23年11月配布
- ・京都府建設交通部河川課：平成23年12月配布
- ・大阪府都市建設部河川室：平成24年2月配布

【京都新聞】

市民団体や個人… 環境守る意識を共有



川べりを清掃する市民たち。琵琶湖・淀川水系では多くの住民や団体が清掃活動に取り組んでいる（8月27日、京都市右京区・桂川河川敷）

水環境保全に取り組み琵琶湖・淀川流域圏連携交流会（事務局・大阪市）は、水辺で清掃活動に取り組んでいる市民やグループの情報を集めている。寄せられた情報はインターネット上の地図で公開し、川や湖を大切にすることを広める。

流域圏交流会 ネット上地図で公開

琵琶湖・淀川水系 清掃活動情報求ム

琵琶湖・淀川水系では多くの住民や団体が清掃活動に取り組んでいる（8月27日、京都市右京区・桂川河川敷）

「琵琶湖・淀川水系では盛んに清掃活動が取り組まれているが、どれだけ市民や団体が関わっているのかというデータはなかった。」

所定の調査票に団体名や清掃の活動区間、頻度、清掃目的などを記入してもらおう。町内会や個人レベルの取り組みも対象で、「毎日、家の前の川を掃除している」といった例も募っている。

データは同交流会のホームページに掲載し、清掃に取り組んでいる団体や個人を河川ごとに紹介する。将来は、アンケートに答えてくれた団体や個人の交流の機会も設けたいという。

同交流会の鈴木康久代表幹事（51）は「個人も含めれば定期的に川掃除している人や団体は数百年に上るはず。多くの人が川に関わっていることが分ければ、川を汚すことはできないはず」と話している。

調査票は同交流会のホームページからダウンロードできる。締め切りは12月末。問い合わせは同交流会 ☎06(6910)8805。

（目黒重幸）

【アンケート 調査票】

川を美しくする活動 アンケート調査票

本調査は、琵琶湖・淀川水系の川を大切にされている方々の思いを数字で示すことで、より多くの方に川を美しくする活動に参加いただきたいと願い行っております。貴団体（個人）で行われている河川を美しくする活動について教えていただきますようお願いいたします。

なお、本調査結果は、新聞社に伝えるとともに、琵琶湖・淀川流域圏連携交流会のホームページ他で公開いたします。

※ 団体名（個人名）、内容等の記載を遠慮されたい方は、その旨を記載下さい。

※この活動は TaKaRa ハーモニストファンドのご支援をいただいております

団体名	（※ 個人でされている方は、個人名を記載ください）		
代表者	役職名：	氏名：	
住所			
連絡先	TEL：	FAX：	E-mail：
※ 担当者 氏名： 連絡先： （できましたら担当者の氏名・連絡先を記載ください。公開はいたしません）			
◆ 貴団体が主催されている川を美しくする活動（清掃活動）について教えてください。			
河川名（市町村名）	河川名：	（市町村名： ）	
美しくする活動の実施区間 （記載例）	※ 約 m		
	（記載例） 〇〇自治会（〇〇町）内、〇〇橋から〇〇橋まで。〇〇建物の前など。 約300m		
実施回数・時間 （記載例）	回 （ 時間）		
	（記載例） 3 毎日、週2回、月1回、年3回など。 1時間、30分など。概ねでOKです		
1回当たりの参加人数 （記載例）	人		
	（記載例） 13人（前回の人数）、5～8人、約10人、約3000人など。概ねでOKです。		

(6) 調査結果

【 回答数 】

滋賀県、京都府、大阪府の3府県の162団体（含む5個人）から214ヶ所で清掃を行っているとの回答あった。中でも滋賀県が69団体と最も多く、全体の43%を占めている。次が京都府の50団体（含む5個人）、大阪府の43団体であった。この団体からの回答数は、3府県の流域面積に比例しており、各府県の行政機関からアンケート調査票が配布された結果を反映していると考えられる

今回の調査では162団体等からの回答であったが、実際は回答数の数倍から数十倍の団体が何らかの形で清掃を行っていると推測される。

表1 アンケート回答数

	滋賀県 (%)		京都府 (%)		大阪府 (%)		全体
団体数	69	43%	50	31%	43	27%	162 団体等
ヶ所数	98	46%	54	25%	62	29%	214 ヶ所
流域面積	1,601,930 千㎡		797,101 千㎡		489,061 千㎡		2,888,092 千㎡

※ 流域面積は、淀川流域に一部又は全部が含まれる市町村の課税対象土地面積を記載

【 清掃区間延長 】

157 団体等が清掃している全延長は 235km にもなり、淀川水系の基幹流路延長距離 (75km) の約 3 倍に当たる延長を清掃していることが確認できた。

各団体は、それぞれ地域の河川（淀川の支流）において約 1.5km の区間、1ヶ所当

たり 1.2km の清掃を行っている。その分布を見ると、1 団体が 10 km や 20 km などの長い区間の清掃を行っているケースも見られたが、総じて 100～1500m までが最も多く、全体の 73% に当たる 140 団体がこの延長の区間を清掃している。このことから地域団体が身近な河川を清掃していることが分かる。

これらの清掃の努力の積み重ねの結果として、ほぼ大阪駅から愛知県の岡崎駅までの区間 (230 km) をボランティアが清掃していることとなる。

表 2 河川の清掃区間延長

	滋賀県 (%)	京都府 (%)	大阪府 (%)	全体
延長 (m)	101,008m (43%)	69,495m (30%)	65,010m (28%)	235,513m
1 団体当り延長	1,597m	1,389m	1,625m	1,500m
1 ヶ所当り延長	1,052m	1,286m	1,101m	1,226m
有効回答団体数	67	50	40	157 団体等
有効回答ヶ所数	96	54	59	209 ヶ所

表 3 清掃区間分布

管理延長 (m)	0～99	100～499	500～999	1,000～1,499	1,500～1,999	2,000～2,999	3,000～	合計
清掃ヶ所数	5	50	52	38	17	15	13	190
(%)	3%	26%	27%	20%	9%	8%	7%	

※ 1 団体が 20 ヶ所、20 km の延長を実施しているが、各ヶ所の延長が不明なために有効回答数から除いて作成。

【 参加人数 】

河川を清掃する年間の延べ人数としては、159 団体が主催する活動に延べ 61,775 人のボランティアが参加している。一見すると多いようにも思えるが、6 万人は流域人口 1,200 万人のわずか 0.5% と少ない。

一方で、1 団体当たりのボランティアの年間延べ参加人数は 388 人と多く、清掃に積極的に参加する方とそうでない方の差が大きいことが分かる。また、大阪府と京都府で年間延べ人数に倍近くの開きがあるのは、大阪府の団体の清掃回数が多いためである。

1 回当たりの参加人数については、112 人と 100 人を超える人数となっているが、これは滋賀県が 177 人と京都府・大阪府と比較して 100 人以上も多いためである。この理由は、滋賀県では 2,000 人以上が参加する清掃活動が 2 回、100 人以上が参加する活動については 25 回 (36%) と、大きな清掃活動が多いことによる。京都府が大阪府よ

り 20 人ほど多い理由は、1500 人が参加する清掃活動が行われているためであり、このような特異なデータを除くと、大阪府の数値が示す 50 人程度が参加する清掃活動が一般的と言えよう。

表 4 清掃に関する年間延べ人数

	滋賀県 (%)	京都府 (%)	大阪府 (%)	全体
延人数(人)	28,389 (46%)	13,480 (22%)	19,906 (32%)	61,775 人
有効回答団体数	68	50	41	159 団体等
1 団体当りの 年間延人数	417 人	216 人	485 人	388 人

表 5 1 回当たりの参加人数

	滋賀県	京都府	大阪府	全体
参加数(人)	177 人	72 人	56 人	112 人
有効回答ヶ所数	68	54	41	163 ヶ所

【1 団体当たり年間掃除回数】

1 団体当たりの年間掃除回数は、16 回と 1 ヶ月に 1 回以上であった。各府県を比較すると滋賀県が 3 回に対して、京都府が 29 回、大阪府が 24 回と一桁違う数値となっている。これは、回答者の中で毎日行う団体等の数値が影響しているためである。

分布を見ると年 1 回の清掃が全体の 40%に当たる 86 ヶ所、2 回から 5 回を含めると全体 72%が 1 年間に数回の実施となる。逆にほぼ毎日の実施が 11 ヶ所で全体の 5%に当たる。月に 1 回の実施は 27 ヶ所で 13%であった。

表 6 年間の掃除回数

	滋賀県	京都府	大阪府	全体
年間回数	3 回	29 回	24 回	16 回
有効回答ヶ所数	98	54	62	214 ヶ所

表 7 年間の掃除回数分布

年間回数	1回	2回～ 5回	6回～ 11回	12回	13回～ 99回	100回 ～	計
ヶ所数	86	68	12	27	10	11	214
(%)	40%	32%	6%	13%	5%	5%	

(「桂川クリーン大作戦」：3,000人が数カ所に分かれて行う清掃活動：年1回)



【1回当たりの平均清掃時間】

1回当たりの平均清掃時間は、約2時間の結果を得た。集合して挨拶、最後のお茶の時間等を含めると2時間程度が一般的だと考えられる。各府県とも大きな違いはないが、大阪府が1.7時間と少ないのは、30分間だけ行っているとの回答が8ヶ所であったためである。逆に半日以上時間を掛けて行っている事例も幾つか見られた。

表8 1回当たりの平均清掃時間

	滋賀県	京都府	大阪府	全体
清掃時間	2.4時間	2.3時間	1.7時間	2.2時間
有効回答ヶ所数	60	50	40	150ヶ所

<河川の清掃状況>

(舟に乗って行う溪流での清掃：年1回)

(イベント後に行う都市河川の清掃：不定期)





(定期清掃：月1回)

【河川を清掃する目的】

河川を清掃する目的で最も多かったのが、「川を美しくしたい」で81%であった。次に多いのが「生き物のため」で51%と半数を占めている。3番目が「子どもの環境教育」であり、全体の41%の団体が子どもと一緒に清掃活動を行っていることがわかる。これらの理由から河川の清掃を主目的として実施しているが見えてくる。この事を顕著に示しているのが、「イベントのひとつの企画として行っている」は15%しかなく、河川清掃を目的に活動している実態が明らかとなった。一方で、「行政からの依頼で行っている」は11%と少なく、地域活動団体が自主的に取り組んでいる様子が見える。特に京都府は、行政の依頼が2団体だけと、滋賀県、大阪府と比較して少ないのが特徴である。その他の回答(22%)での主な意見としては「地域の環境を守る」が最も多く、次のような意見も得られた。

(その他：自由記述)

- ・ 地域の環境を守る（環境美化）
- ・ 地区の景観財産として守っていききたい
- ・ 堤防決壊を防ぐこと、並びに通行路確保
- ・ 悪臭対策のために藻の除去
- ・ フェンス越しに投入されるゴミの撤去
- ・ 自分の健康の為にやっている
- ・ 特定外来生物であるアレチウリ、ブルーギル、ブラックバスの防除
- ・ 子ども魚つかみ取り大会
- ・ 大阪府アドプトリバー協定

表9 河川を清掃する目的

	総計(%)		滋賀県	京都府	大阪府
川を美しくしたい	131	81%	52	42	37
生き物のため	82	51%	33	28	21

(社員が家族と一緒に清掃：年1回)



子どもの環境教育	66	41%	25	22	19
安心して利用できる川	56	35%	15	22	19
前からしている	40	25%	20	13	7
イベント企画	25	15%	8	7	10
行政からの依頼	18	11%	8	2	8
その他	36	22%	16	13	7
回答団体数	162		69	50	43

【 活動の継続に必要な事 】

今後の活動に必要な事項としては、「より多くの参加者」（52%）、「資金・資材の援助」（51%）、「自治会等地域との連携」（48%）の順番で回答があり、4番目が「河川管理者の連携」（42%）であった。

他の回答としては「上下流団体の連携」が24%、「活動のPR」が23%と他団体の関係性を重視するよりも、自分たちの活動の充実を求めていることが明らかとなった。そのために必要となる「活動へのアドバイス」は8%と低いことも特徴のひとつである。このような傾向は、地縁型組織に多く見られ、府県における変化は見られなかった。その他の回答は8%と少なかったが、次のような意見が得られた。

（その他：自由記述）

- ・ 河川管理者の規制の過度煩雑
- ・ 投棄ごみ撲滅
- ・ 自治会行事としての実施
- ・ 楽しいイベントなどの実施
- ・ 会員同士の交流、学習活動
- ・ 人材及びリーダーの育成
- ・ 後継者の選択

表 10 活動の継続に必要な事項

	総計(%)		滋賀県	京都府	大阪府
より多くの参加者	85	52%	33	27	25
資金、資材の援助	83	51%	36	24	23
自治会等地域との連携	78	48%	36	22	20

河川管理者との連携	68	42%	24	22	22
上下流の団体との連携	39	24%	18	13	8
活動のPR	38	23%	13	14	11
活動へのアドバイス	13	8%	4	6	3
その他	13	8%	5	6	2
回答団体数	162		69	50	43

(7)「河川の清掃・流域一覧地図（マップ）」の作成

調査結果については、滋賀県、京都府、大阪府の3府県の河川地図上の河川に清掃している団体番号を記載する一覧地図を作成した。

その団体番号毎に、団体名、河川名、清掃の実施区間、人数、回数、時間について記載した。ただし、非公開を希望された団体については記載していない。本報告書では、紙面の関係から全ての団体を記載することができないため、一部を抜粋して掲載する。

このデータは、当交流会のホームページ <http://www.bynet.jp/> に掲載している

(滋賀県)



団体No.	1				
団体名	針江生水の郷委員会				
活動河川	針江大川				
実施区間	湖岸道路上流100m～300mまで				
実施区間	200	m	参加人数	約60～70	人/回
実施頻度	年1	回	実施時間	6	時間/回

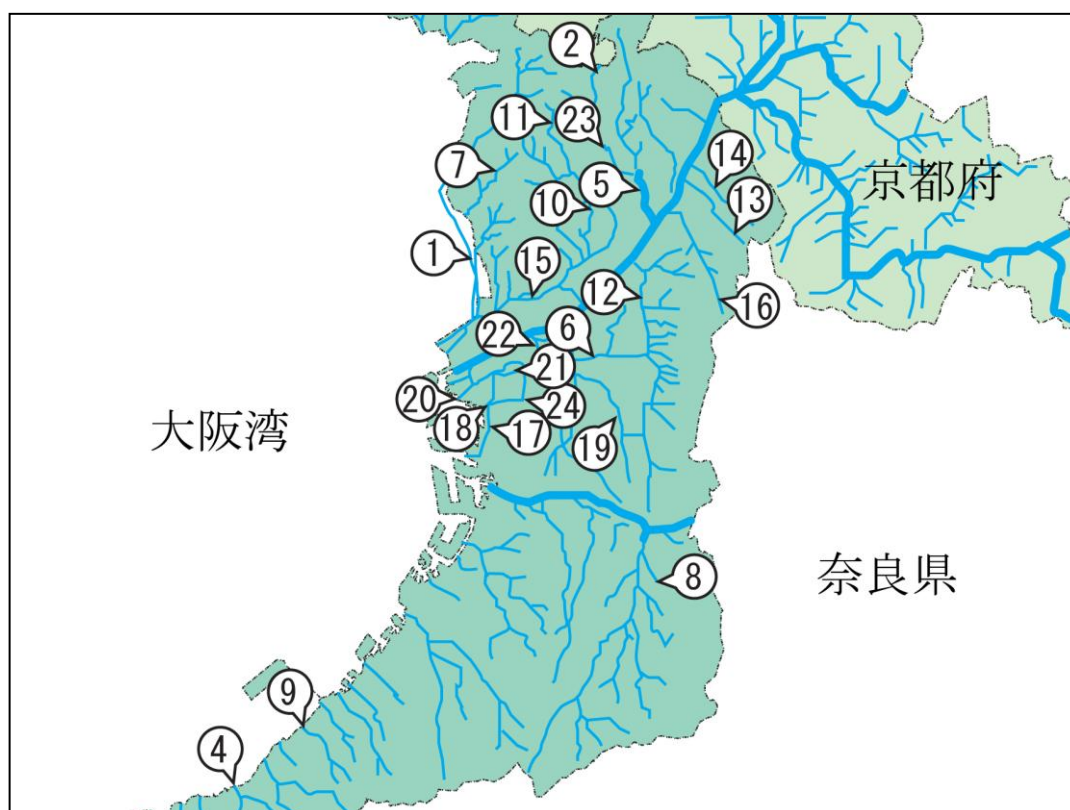
(京都府)



団体No.	1				
団体名	クリーン白川の会				
活動河川	一級河川淀川白川水系				
実施区間	東山三条橋～知恩院～花見小路通				
実施区間	300	m	参加人数	80～100	人/回
実施頻度	年4	回	実施時間	2	時間/回

団体No.	6a				
団体名	鴨川を美しくする会(定例クリーンハイク)				
活動河川	淀川水系鴨川				
実施区間	丸田町橋～五条大橋間の両岸河川敷				
実施区間	約2500	m	参加人数	約50～70	人/回
実施頻度	年2	回	実施時間	2	時間/回

(大阪府)



団体No.		1			
団体名	大阪府立園芸高校 環境緑化科				
活動河川	猪名川				
実施区間	猪名川大橋周辺5km				
実施区間	5000	m	参加人数	10	人/回
実施頻度	月4	回	実施時間	3	時間/回

団体No.		3			
団体名	西淀自然文化協会				
活動河川	淀川下流域右岸及び神崎川左岸河口部など				
実施区間	淀川: 約1キロ区間、神崎川: 約1キロ区間				
実施区間	2000	m	参加人数	30~100	人/回
実施頻度	年4	回	実施時間	0.5	時間/回

(8) 調査結果の活用

① 当交流会のHPで調査結果を掲載

琵琶湖・淀川流域で河川清掃を行っている活動を紹介する「河川の清掃・流域一覧地図（マップ）」を当交流会のHP「川を美しくする活動」で掲載し、清掃活動の「見える化」を行うことで、より多くの方に河川清掃の実態について知ってもらうことで、河川を大切にする活動の普及を図る。

【琵琶湖・淀川流域圏連携交流会のホームページ <http://www.byonet.jp/>】



The screenshot shows the homepage of the Biwa Lake and Yodo River Basin Network Exchange Association. The header includes the logo 'BYnet びーわいネット' and the title '琵琶湖・淀川流域圏連携交流会 BIIWAKO YODOGAWA RYUUIKIKEN RENNKEI KORYUKAI'. There is a text size change button with options '大', '中', '小'. The navigation menu includes '生態の窓', '景色の窓', '歴史の窓', '人と地域の窓', '防災の窓', and 'ええはがき'. The main content area has three sections: '交流会広場' (Exchange Plaza) with links for '交流会メンバー所属団体', '流域圏内交流会メンバー分布', and '学生の広場'; '琵琶湖・淀川流域圏' (Biwa Lake and Yodo River Basin) with links for '概念', '各府県の概要', '流域概要', and '川を美しくする活動'; and '交流会とは' (What is the Exchange Association) with links for '交流会とは', '設立趣意書', '会則', '役員', '活動報告', and '平成22年度活動予定'. A large image shows a night view of a river with city lights and a bridge. Below the image is a '最新のお知らせ' (Latest News) section with a notice dated 2012-02-27 about a forum on 'Who is for making the river beautiful?'.

「川を美しくする活動」に、(7) で記載した「河川の清掃・流域一覧地図（マップ）」が掲載されている。

② 報告書を作成し関係行政機関への配布

本資料を掲載した報告書を作成し、関係機関に配布する。

③ B Y net の活動の場で調査結果の紹介

平成 24 年 4 月 28 日に開催した当交流会の総会で調査結果を紹介した他、毎年 7 月に開催される B Y 展や、12 月に開催される京都環境フェスティバルなどで、淀川水系の清掃活動の実態について紹介する。

④ メーリングリスト

河川団体が参加する ML での情報交流の実施。現在、約 1 2 0 団体が参加。

⑤ フォーラム「誰のために河川を美しくするのか」を開催

主催：琵琶湖・淀川流域圏連携交流会

日時：平成24年3月10日(土) 13:30～16:30

場所：淀川河川事務所 伏見出張所内 流域センター

内容：

開会挨拶・アンケート結果報告

野田晃弘氏(琵琶湖・淀川流域圏連携交流会 代表幹事)

1部 パネルディスカッション「河川を美しくする意味と意義」

コーディネーター 橋本夏次氏(琵琶湖・淀川流域圏連携交流会 幹事)

パネラー

北田俊夫氏(NPO法人 びわこ豊穡の郷 理事長)

仁枝洋氏(琵琶湖・淀川流域圏連携交流会 幹事)

新里嘉孝氏(おおかわ水辺クラブ 代表)

2部 ワークショップ「河川を美しくする活動の悩みを語る」

ファシリテーター 鈴木康久氏(琵琶湖・淀川流域圏連携交流会 代表幹事)

※ 5～7名に分かれて、互いの楽しみや悩みを伝えあいます。

閉会挨拶 岡村悦治氏(琵琶湖・淀川流域圏連携交流会 代表幹事)

参加者：40名

(アンケート結果の報告)



(ワークショップ)



(パネルディスカッション)



(事例報告)



3 まとめ

琵琶湖・淀川流域で行われている清掃活動の実態についての「見える化」を行い、川を美しくすることの大切さを伝えるために2011年10月～2012年2月にアンケート調査を実施した。その結果、滋賀県、京都府、大阪府の3府県の162団体（含む5個人）から回答があり、214ヶ所での清掃の実態を知ることができた。

団体等が清掃している全延長は235kmと、淀川水系の基幹流路延長距離（75km）の約3倍に当たる延長を清掃しており、1ヶ所当たり1.2kmでのあった。その分布を見ると、全体の73%に当たる140団体が100～1500mまでの区間を清掃しており、地域団体が身近な河川を清掃していることが明らかとなった。

河川を清掃するボランティアの年間延べ人数は61,775人と、多いようにも思えるが流域人口1,200万人のわずか0.5%と少ない。一方で1団体当たりのボランティアの年間延べ参加人数は388人と多く、清掃に積極的に参加する方とそうでない方の差が大きいことが分かる。1回当たりの参加人数は112人であったが、これは千人規模の清掃イベントの影響を受けており、大阪府の数値が示す50人程度の参加が一般的といえる。1団体当たりの年間掃除回数としては、全体72%が1年間に1～5回の実施、1回当たりの平均清掃時間は、約2時間であった。

清掃の目的については、「川を美しくしたい」が81%、次に多いのが「生き物のため」で51%、3番目が「子どもの環境教育のため」であり、全体の41%の団体が子どもと一緒に清掃活動を行っている。逆に「イベントのひとつの企画」として行っているのは15%と少ない。これらの理由から各団体の多くが、河川清掃を主目的で実施していることが分かる。今後の活動に必要な事項については、「よい多くの参加者」（52%）、「資金・資材の援助」（51%）、「自治会等地域との連携」（48%）の順となっており、「活動のPR」（23%）、「上下流団体の連携」（24%）など他団体の関係性を重視するよりも、地域独自の活動としての充実を求めていることが分かる。

以上の結果から、河川清掃は年数回、無理のない範囲で地縁型組織を中心に実施されていることが明らかとなった。ボランティアで清掃を行う行為は、即時的効果よりも「ゴミのポイ捨てをやめよう」という意識的効果が重要とされている。地域美化を進める上でも、身近な河川清掃は大切な地域住民活動といえる。

今回は、162団体からのアンケート調査結果を基に実態を取りまとめたが、実際は回答数の数倍から数十倍の団体が何らかの形で清掃を行っていると思われる。今後はより多くの団体の実態を把握し、その結果を伝える中でより多くの方に河川への興味を持ってもらい、一人でも多くの方が河川清掃に参加いただける環境づくりに努めていきたい。

最後に、これまでに実施されることがなかった河川清掃に関する調査が実施できたのは、TaKaRa ハーモニストファンด์様の御支援のおかげと感謝しております。この場を借りて御礼申し上げます。

参考文献：『BYQ水環境レポート』（財）琵琶湖・淀川水質保全機構（平成19年）